

学校教育目標		知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成		重点目標	主体的・対話的で深い学びに向かう子供の育成		
		評価計画			自己評価	学校関係者評価	改善計画
重点目標	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)		成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	コメント
		重点目標	重点目標	重点目標	重点目標	重点目標	重点目標
重点目標	確かな学力 (知) 生き生きと学ぶ子供	○学習過程の中に、ICTを活用した導入の工夫や考えを交流する工夫を行い、学びに向かう力を高め、主体的・継続的な学習の充実を図る。	○課題解決のための意欲を高めるための工夫を行っている【教師：授業チェックリスト②】→3.5以上(4段階評価)	4	○校内研究としてICTを位置付けた学習過程の工夫に取り組んでいる。ICTの活用は、意欲を高める手立てとして有効である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 子供たちが自分で考えることをより深く、ICTを活用してくれるといい。先生方の授業の取組には感謝している。 低学年からICTを活用した授業が見られたが、読み、書き、計算の基本の部分はノートに書くなど、しっかり書くことを徹底した方がよい。 バランスは必要だと考える。 導入での意欲を高める場面で積極的にICTを活用するとよい。 6年生、2年生は特に授業態度がよく、学習のルールが徹底されていたように感じた。 家庭と連携が重要だと思うが、各家庭事情を考えると差が出てしまう。
		○「本気」で学習を実践し、意欲的に学習に取り組むよさを実感する授業を行う。	○課題解決の達成感を実感させるための工夫を行っている【教師：授業チェックリスト⑤】→3.0以上(4段階評価)	4	○学習のまとめと振り返りを位置付け、児童が達成感を実感するようにしている。	A	
		○自分の考えが見えるように表現し、説明に生かしたり、友達の考えを取り入れたりする。	○自分の考えをつくったり、友だちの考えと比べたりして、自分の考えをよりよいものにする【児童：授業チェックリスト④】→3.5以上(4段階評価)	4	○考えを整理する場面でICTを意図的に活用することにより、コミュニケーションのツールとして自分の考えを表現し、友達の考えと比べることができた。	A	
		○習熟度別少人数学習等、学力低位層への指導の工夫によるわかる授業づくりに努める。	○国語・算数の勉強が好きという児童【教育活動評価】【学力向上プラン視点③】→8.0%	3	○プレテストや小テストなどを日常的に繰り返し行うことができた。	A	
		○学習のルール10か条を活用した学習の仕方・学習規律の指導	○ルールが定着している児童【児童アンケート】→8.0%	3	△問題文の意味を読み取ることができない児童が多い。	A	
		○家庭と連携した家庭学習の指導 ・家庭学習強調週間の年3回の実施 (目標時間：低30分、中45分、高60分)	○家庭学習の目標時間が達成できた児童【教育活動評価】→8.0%	3	△学習のルール10か条については、学年や学級により取組の差がある。共通実践として、全学級が同様に取り組む必要がある。評価を掲示したことは、意欲につながった。	A	
		○道徳の授業において、心の変容や葛藤を表出したり考えを交流したりする話し合いを位置付け、自他共に大切にすることを図る。	○道徳の授業において、話し合いを通して考えを書いている児童【教育活動評価】→8.0%	4	○道徳の時間においても、ICTを活用することで、心の動きを言葉や絵図で表現しやすくなり、話し合いが活発になった。	A	
		○「笑顔」で挨拶の徹底を図る。 (挨拶運動との関連)	○ほかほか言葉をつかう児童【教育活動評価】→8.0%	3	△道徳の内容と生活を結びつけ、自分事として内容を捉えさせる工夫が必要である。	A	
		○学級遊びを奨励し、児童同士が自主的・自発的に関わりをもつための学級活動を充実する。	○挨拶が定着している児童【教育活動評価】→8.0%	4	△言葉づかいや挨拶、廊下歩行等の基本的な生活習慣の徹底は、学級により差が大きい。	A	
		○生活目標の指導の徹底を図るため、全校朝会において、児童が生活目標の取組を発表するとともに、学級において、担任が取組の徹底を指導する。	○月2回学級遊びの実施【教育活動評価】→8.0%	3	○多くの学級が、学級活動の話し合いをもとに学級遊びの取組を行っている。自主的な活動として定着させることが必要である。	A	
○意図的・計画的に地域の宝(ひと・もの・こと)を活用した活動を位置付けることにより、相手のことを考えたコミュニケーション力や表現力を身に付けさせる。	○正しい廊下歩行をする児童【教育活動評価】→8.0%	3	△生活目標を意識させることが不十分であった。だまって掃除に関しては、重点的に取組を行い、掃除の始まりと終わりに児童を集め、振り返りと評価をしている。	A			
豊かな心 (徳) 思いやりをもった子供	○「元気」な体を目指して運動が苦手な子供も楽しく取り組むことができるように、興味関心を高め主体的な学びを生み出す場の工夫を図る。	○運動が「好き」「やや好き」を合わせた児童【教育活動評価：体力向上プラン】→9.0%	4	○朝の体力アップ運動や持久走大会に向けた業間走の取組、長縄の取組、短縄のなわとび検定の取組等により、体力向上に取り組むことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 ソーシャルスキルトレーニングのように、実体験しながら繰り返して覚えていく方法も有効ではないかと考える。 日々の生活の中で、自分の気持ちを言葉にして書き表すなど、自分を見つめなおす時間が必要だと思う。 日頃の挨拶は、大変よくできていると感じる。 言葉遣いが中学校で課題が見られるので、学級だけではなく、学年で指導を徹底してほしい。 学校、地域の行事を通じて子供たちとの交流があった。保護者ともう少し関係性ができればよいと考えている。 	
	○週1回の体力アップタイムを実施する。	○週1回の実施【教育活動評価】→8.0%	4	△各学級で、全員遊びを取り入れながら、外遊びの奨励をしてきた。しかし、外遊びをする子としない子の差が大きい。	A		
	○休み時間の外遊びの奨励する。	○休み時間に週3日以上外遊びをする児童【教育活動評価：体力向上プラン】→9.0%	3	△ゲームやスマートフォンの影響により、夜遅くまで起きているため、早起きができない、生活のリズムが整わない児童が複数いる。	A		
	○基本的な生活習慣の定着のため、早寝・早起き・朝ご飯の取組を家庭と連携して行い、その結果を学校便りでお知らせする。また、個別に懇談会等で話し、家庭と一緒に改善を図る。	○早寝・早起きが定着している児童【教育活動評価】→8.0%	3	○生活科や総合的な学習の時間で、系統的な食育に取り組んでいる。食べ物の大切さについて考える活動を行うことができた。	A		
	○食育の推進を図る。	○朝ご飯が定着している児童【教育活動評価】→9.0%	3	○食の大切さを理解し、感謝する児童【教育活動評価】→8.0%	A		
	○福岡アクション3の実践する。	○学校に行くのを毎日楽しみにしている児童【学校生活アンケート⑧】→3.0以上(4段階評価)	4	○不登校未然防止のため、随時、家庭訪問を行っている。また、不登校の児童や保護者と連絡をとることが難しい家庭もあるが、様々な関係機関と連携しながら取組を行っている。	A		
	○家庭、地域との連携を図る。 ・主任児童委員による教育相談日の実施 ・家庭用チェックリストの配布	○アンケートに基づく聞き取りや教育相談の実施、認知したいじめの4ヶ月以内の解消【教育活動評価】→10.0%	4	○チェックリストやアンケートをとった後は校長、教頭、教務が目を通し、担任に聞き取りを指示し、早期対応に努めている。現在、いじめが継続している事案はない。今後は、その後の経過を今以上に丁寧に見ていく。	A		
	○出欠状況の確実な把握、関係機関等との連携を強化する。	○チェックリストの記述への対応【教育活動評価】→10.0%	4	△全く登校ができていない児童が数名いる。	A		
	○毎月のいじめアンケートと聞き取りを行い、結果を報告する。また、毎月の教師用チェックリストを実施する。	○学校に行くのを毎日楽しみにしている児童【学校生活アンケート⑧】→3.0以上(4段階評価)	4	△昨年度比10%削減は実施できていない職員が多い。学校閉庁時刻を過ぎても、数名が学校に残っている。	A		
	○家庭、地域との連携を図る。 ・主任児童委員による教育相談日の実施 ・家庭用チェックリストの配布	○毎日の無届け欠席・遅刻の確認、配慮が必要な児童情報共有【教育活動評価】→10.0%	4				
いじめ防止	いじめを「しない、させない、許さない」子ども	○毎月のいじめアンケートと聞き取りを行い、結果を報告する。また、毎月の教師用チェックリストを実施する。	○アンケートに基づく聞き取りや教育相談の実施、認知したいじめの4ヶ月以内の解消【教育活動評価】→10.0%	4	○チェックリストやアンケートをとった後は校長、教頭、教務が目を通し、担任に聞き取りを指示し、早期対応に努めている。現在、いじめが継続している事案はない。今後は、その後の経過を今以上に丁寧に見ていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 アンケートで声を上げることができない子供を複数の教員でチェックできると、早期対応ができると考える。 相談室での子供の声に耳を傾け、大切にしていきたい。
		○家庭、地域との連携を図る。 ・主任児童委員による教育相談日の実施 ・家庭用チェックリストの配布	○チェックリストの記述への対応【教育活動評価】→10.0%	4			
不登校防止	不登校防止 元気に登校してくる子供	○福岡アクション3の実践する。 ・家庭訪問の機会を随時設け、教職員、保護者、関係機関等の連携を図る。	○学校に行くのを毎日楽しみにしている児童【学校生活アンケート⑧】→3.0以上(4段階評価)	4	○不登校未然防止のため、随時、家庭訪問を行っている。また、不登校の児童や保護者と連絡をとることが難しい家庭もあるが、様々な関係機関と連携しながら取組を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 全く登校できていない子供へ地域でできることはないか検討したい。 中学校との兄弟関係で不登校が見られるので、情報交換も定期的に行っていきたい。
		○出欠状況の確実な把握、関係機関等との連携を強化する。	○毎日の無届け欠席・遅刻の確認、配慮が必要な児童情報共有【教育活動評価】→10.0%	4			
働き方改革	働き方改革 意識改革と業務改善	○週1回のノー会議デー及び定時退校日の設定(毎週水曜日)、学校閉庁時刻(19時)での退校を意識づける。	○昨年度同月比超過勤務時間→10%削減	3	△昨年度比10%削減は実施できていない職員が多い。学校閉庁時刻を過ぎても、数名が学校に残っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 工夫していると思うので、このまま継続してほしい。 10%は適切か検討してほしい。

◇評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである